

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手		
理学療法 学科	人	人	人	人	人	人	6 人	人	人	7.7 人
△△課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
計	人	人	人	人	人	人	6 人	人	人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	11		兼任
		国語表現	10		兼任
		教育学	10		兼任
		人間発達学	8		兼任
		生物学	10		兼任
		物理学	8		兼任
		統計学	9	川瀬翔太	専任・兼任
		英語Ⅰ	10		兼任
		英語Ⅱ	10		兼任
		医学英語	13	蔵野博明	専任
		保健体育	13		兼任
		人間関係論	4		兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	12	川瀬翔太	専任・兼任
		解剖学Ⅱ	17		専任・兼任
		解剖学 実習	18	川瀬翔太	専任
		表面解剖学	12	川瀬翔太	専任
		生理学Ⅰ	11		兼任
		生理学Ⅱ	11		兼任
		生理学 実習	19	中村敦子	専任・兼任
		基礎運動学	10	米田 愛	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	10		兼任
		臨床心理学	8		兼任
		薬理学	8		兼任

		内科学	13		兼任
		内部障害学	16	川瀬翔太	専任・兼任
		一般臨床医学	13		兼任
		整形外科学	8		兼任
		運動器障害学	8		兼任
		神経学	14		兼任
		神経障害学	14	中川 誠	専任・兼任
		精神医学	8		兼任
		小児科学	11		兼任
		健康管理学	7	中村敦子	専任・兼任
		医療安全管理学	7	米田 愛	専任・兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論	10		専任
		リハビリテーション概論	8	堤 恵志郎	専任
		社会福祉学	10		兼任
		公衆衛生学	8		兼任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	堤 恵志郎	専任・兼任
		基礎理学療法学	12	中村敦子	専任
		基礎理学療法学 実習	14	蕨野博明	専任
		運動学	11	川瀬翔太	専任
		運動学 実習	12	米田 愛	専任
		理学療法研究法	21	蕨野博明	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	22	堤 恵志郎	専任・兼任
		理学療法管理学Ⅱ	7	中川 誠	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	13	米田 愛	専任
		理学療法評価学Ⅱ	14	蕨野博明	専任
		理学療法検査測定演習	4	川瀬翔太	専任
		理学療法評価学 演習	10	蕨野博明	専任
	理学療法治療学	運動器障害理学療法学Ⅰ	10	蕨野博明	専任
		運動器障害理学療法学Ⅱ	11	蕨野博明	専任・兼任
		神経障害理学療法学Ⅰ	13	堤恵志郎	専任
		神経障害理学療法学Ⅱ	13	蕨野博明	専任・兼任
		内部障害理学療法学Ⅰ	10	川瀬翔太	専任・兼任
		内部障害理学療法学Ⅱ	13	中村敦子	専任・兼任
		老年期障害理学療法学	12	中川 誠	専任・兼任
		小児発達障害理学療法学	17		兼任
		理学療法学特論	8		兼任

		理学療法学総合演習	13	蕨野博明	専任
		物理療法学	13	川瀬翔太	専任
		物理療法学実習	12	堤恵志郎	専任
		日常生活活動学Ⅰ	9	堤恵志郎	専任
		日常生活活動学Ⅱ	14	中村敦子	専任
		義肢装具学	15	中村敦子	専任
		義肢装具学実習	12		兼任
	地域理学療法学	生活環境論	13	中村敦子	専任
		地域理学療法学	8		兼任
		地域理学療法学演習	16	蕨野博明	専任・兼任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1		兼任
		臨床実習Ⅱ	1		兼任
		臨床実習Ⅲ	1		兼任
		地域理学療法実習	1		兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（小児・総合施設の見学）	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法概論	2年前期
評価実習（評価の実践）	2年後期	理学療法検査測定演習	2年前期
		理学療法評価学 演習	2年後期
総合実習 （治療の実践・地域リハビリ）	3年前・後期	理学療法総合演習	3年前期
		地域理学療法学 演習	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	長屋政博（あいちリハビリテーション病院 顧問）
組織の開催頻度	1年に一回
組織の取り組み内容	・ 学生満足度評価（前後期一回、卒業時）
	・ 自己点検・自己評価結果
	・ 学科別（個人）取り組み状況
	・ リハ学院・学科目標
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.gakuin.toumei-nho.jp/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	学院長、事務長、看護部長、大学教授、施設長、協議会会長、教員
	改善の仕組みの実際	年に二度開催し、意見交換し改善できる場となっている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

年に一度、自己点検表、自己評価にて全教員が実施し、総括したものを運営委員会、学校関係者評価委員会にて報告、意見交換し、指摘内容も記載したうえで HP にて公表している。 課題に関しては、優先順位をつけて次年度の学院・学科目標に反映させて改善を図るように努めている。
--